

ご挨拶

市立大津市民病院 院長 片岡慶正

平成 30 年 1 月

### 新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素より当院の運営に格別のご支援を賜り、まことにありがとうございます。

### 新生“市立大津市民病院”の第一歩

さて、当院は昨年 4 月 1 日から経営形態の変更に伴い、名称も新たに『地方独立行政法人市立大津市民病院』としてリニューアルしました。昨夏には当院の歴史 118 年の歩みパネル展示を作成し、明治～大正～昭和～平成までの歴史を本館 1 階廊下「ホスピタルストリート」に常設させていただきました。写真と史実が織りなすパネル展示は過去からの学びと今から未来への羽ばたきに繋がると好評をいただいています。

また、年末には患者さんと病院をつなぐ情報誌創刊号を発刊しました。誌名も公募により「つなぐ」となりました。当院では従来から、「地域医療連携室だより」、「大津市民病院雑誌」、「大津市民病院年報」、「地域医療連携ガイドブック」、市立大津市民病院パンフレットを発刊してきました。今回の「つなぐ」は患者さん向けの情報誌として、当院の強み、チーム医療現場、院内探訪とその雰囲気、職員の笑顔や真剣な眼差しと緊張感を織り交ぜた顔の見える身近な情報発信源です。総論から各論へ、市民とともにある、地域とともにある病院をあるべき姿として、個としての“あなた”とともにある病院への道を具現化してまいります。

### 今から未来に向けて

本年は診療報酬・介護報酬の同時改定の年度で、第 7 次医療計画や第 7 期介護事業計画がスタートする年であり、わが国の医療界にとっては分岐点の年といえます。患者の生活に視点を置いた“治す医療”から“治し支える医療”への転換、地域医療構想、病院機能分化、地域包括ケアシステムの深化が進みます。医療と介護の連携なしには人は住み続けることが出来ませんが、連携という枠と強化の域を超えて、今後は医療と介護の一体化への急流の中で、わたくしたち病院は「効率的かつ質の高い医療提供体制の構築」— “限られた医療・介護資源の中で、効率を高め、質も維持・向上させながら乗り切る必要があります。われわれ医療者は患者ニーズに応える一点の共通目標において、人の心を中心に置いた“まちづくりに貢献し続ける役割”を今後もしっかりと果たしていかなければなりません。

世界に目を向ければ、「従来の延長線上には無い変化が今から始まる」ことは確実です。今まさに、変化に対応する能力の強化、“能力をひらく能力”としてのメタ能力の磨きが求められています。昨年、滋賀県が全国一位の長寿県になったという朗報が飛び込んできました。寿命 100 年時代がそこまで来た今後をどう生きるのか。超高齢化とともに確実に進む人口減少という社会環境の変化がリアリティを持って迫る中、診療報酬マイナス改定と来年の消費税 10%問題などを勘案すると、まさに疾風怒濤の時代の始まりといっても過言

ではありません。“命を守る医療を守り抜く”強い志と先を見通す知恵が問われています。

今後も職員一丸となり、地域医療支援病院として、急性期医療を担う地域の中核病院としての役割を果たし、地域の皆様にとってなくてはならない健康・医療拠点としての病院機能の充実に邁進してまいります。変化の時代にあって、変化に対応する自己変容可能な組織体として、“顔の見える信頼関係”の構築と“心の通う連携”強化に努め、真摯に皆様のお声を拝聴して地域の医療ニーズに応え続けていく所存です。皆さんとともに明るい未来に向かって一歩でも前に進む1年にしたいものです。

本年が皆様にとりまして、希望に満ち、心豊かな明るい年になりますことを祈念申し上げます、ご挨拶といたします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成 30 年 1 月